

由布岳にヒゴタイの群生をよみがえらせようと、由布岳南山麓景観保全機構が取り組んでいます。

## 由布岳周辺で苗植え付け

## 「群生、10年後には

由布岳にヒゴタイの群生をよみがえらせようと、由布市湯布院町の由布岳南山麓景観保全機構（加藤幸雄代表）はヒゴタイの苗の植え付けに取り組んでいる。高さ40～50㌢のヒゴタイは15年ほど前まで由布岳周辺の草原を美しい紫色に彩っていた。次第に見られなくなり、2006年に絶滅の恐れがある県希少野生動植物に指定された。機構は「以前の風景を10年後には復活させたい」と意気込んでいる。

機構は、由布島周辺で野焼きをしている湯温区牧野組合員のうち10人が10年に結成。員のうち10人が10年に結成。野焼き文化や由布岳の景観、貴重な植物を残していくようと、これまでに本を作るなど、この活動をしてきた。県生活環境企画課によると、ヒゴタイが減少する理由として、盗掘や野焼きができなかつた草原が組合員に依頼し、ヒゴタイが組合員に依頼し、ヒゴタイが森林になり光が当たらず生育しなくなつたことなどが考えられるという。市は、由布島周辺も気候の変化や盗掘が続いていた可能性があるとし、野焼きを続いているものの、ヒゴタイは姿を消していった。紫色の草原を懷かしむ機構考えられるといふ。

の種を3~4年かけて苗に育てた。いつ植えれば、苗が育っていくかを確かめるため、今春、時期をずらしながら計100本を植えた。  
本月6日には由布岳周辺の草原にさきに約50本を植え付けた。花が咲くようになるまでにはあと2~3年かかるとみている。加藤代表は「由布岳周辺には黄スマリやサクラソウなど特有の植物もある。希少な植物を探らないよう声掛け合い、みんなで美しい風景を守りたい」と話している。

(2013年6月13日夕刊11面)

①絶滅の恐れがあるヒゴタイは、何に指定されているでしょう。

②減少した理由として考えられることは何でしょう。

③ヒゴタイを復活させ、守るために皆ができることは何でしょう。話し合ってみよう。